

# 同志社女子大学

# 生活科学会通信

No. 62

2021年6月

同志社女子大学  
生活科学会

## 持続可能な社会の実現に向けて

小松 龍史（生活科学会長）

二〇一五年九月、「国連持続可能な開発サミット」がニューヨークの国連本部において開催され、「持続可能な開発のための2030アジェンダ：SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）」が採択され、そこには17の達成目標が示されている。達成目標の中には、「食と栄養」「健康や福祉」「住居やまちづくり」「気候変動やエネルギー」「環境問題」「平等」などに関わる具体的な目標が設定されている。さらに菅首相が「2050年カーボンニュートラル宣言」を行ったり、アメリカがパリ協定に復帰したことなどが注目されているように、SDGsとも関係が深い温室効果ガス削減への取り組みも大きな注目点である。

これらの動きを私たち「生活科学」を志す者が座視してはいけないことは間違いない。なぜならSDGsも温室効果ガス削減も「生活科学」と密接に関連しているからである。たとえば、「2050年において世界的な平均気温上昇を産業革命以前に比べて2°Cより十分低く保つとともに、1.5°Cに抑える努力を追求する（1.5°C目標）」というパリ協定を実現するにはどのような取り組みが求められるのか。日本における一人当たりのカーボンフットプリント（最終消費によって直接または間接的に発生する温室効果ガス排出量）目標が計

算され考察した報告書（1.5-Degree Lifestyles Targets and Options for Reducing Lifestyle Carbon Footprints）がある。この中で、現状と目標との間のギャップを領域別に分析したところ、二〇一七年時点のカーボンフットプリントは食に関連して1,400 kg、住居領域全体で2,400 kg、移動に関しては1,550 kgCO<sub>2</sub>e／人／年だという。この3領域だけで全体の71%を占めている。これを基に二〇五〇年までに日本人が削減しなければならないカーボンフットプリントは、食に関連した部分で75%、住居関係で93%、移動関係が96%だそうだ。全体でカーボンフットプリントを91%削減する必要があるとされた。食に関連した部分では肉や乳製品の消費やフードロスの削減などが考えられる。住居関係では化石燃料エネルギーを用いた暖冷房、給湯、調理、照明の削減や家屋の断熱効果の向上などが必要であろう。移動に関してはガソリン自動車の使用や航空機などによる移動の問題の解決が求められる。すなわち、人々の生活のあらゆる視点での取り組みが温室効果ガス削減の鍵を握っているといえる。実現可能かどうか非常に困難な目標にも見えるが、持続可能な地球環境の実現には「生活科学」が果たす役割が大きいことに違はないのである。

## 生活科学部短信

### ①学部長・学科主任について

2021年3月をもって、人間生活学科主任の平光睦子先生、食物栄養学科主任の今井具子先生がそれぞれの任を終えられました。

4月より生活科学部長は前年度から引き続き川崎祐子先生が、人間生活学科主任に奥田紫乃先生、食物栄養学科主任に山本寿先生がそれぞれ就任されました。

②第35回管理栄養士国家試験の全国の平均合格率64.2%、全国管理栄養士養成施設（新卒）の平均合格率91.3%に対し、本学管理栄養士専攻新卒の合格率は97.8%（92名受験中90名合格）でした。

## 生活科学部の新しい 教員の一年



臨床病態学 田中 雅彰



新しい教員として本学に採用されました。しかしながら、採用当初に緊急事態宣言がなされ、講義も実習もすべて遠隔授業となりました。これは、私のようなPC音痴にとつてはとてもない試練であります。講義や実習資料の作成は何とかなりましたが、マナビー（本学に新しく導入された学生さんと教員とのインターネットを介した連絡手段で、小テスト、アンケート、レポート、成績などの実施や管理もできるシステムのことです）の使い方を曲りなりともマス

本学の多く人たちのおかげで、何とかここまで来ることができました。心より感謝申し上げます。

い日々を、困難な状況にこそ成長があると希望を持ち、乗り切りつていきましょう。

にアルコールを設置、座席は指定にしました。盛り付けも大皿盛りはやめてすべて個別盛りになります

製図実習では、自宅で課題に取り組めるよう、1人に1台製図板を貸し出します。その数、約10

調理学研究室助手

した。さらに、試食時はアクリル板を設置したテーブルで「黙食」。実習後には部屋中の机や椅子

皆さんの手元にお届けできまし  
た。

事の始まりは昨年3月。予想もしない1年が幕を開きました。新型コロナウイルスの感染拡大により、春学期の遠隔授業が決定しました。先生のご指導の下、遠

子、戸棚や取っ手、ありとあらゆる場所を消毒してまわりました。数えきれない対策と新しいルールに戸惑い、駆け抜けた2020年度でした。2021度はその反

被服実習でも、ミシンを持つていない学生にはミシンを配達しました。外出の自肃や被服材料店の休業の影響で、学生が製作に必要な布や材料を購入しに行けないという状況でしたが、実習室から材料を送ることで、自宅で作業を進められる様にサポートしました。授業の進行にはマナビーやTeamsなどのオンライン授業支援

事の始まりは昨年3月。予想もしない1年が幕を開きました。新型コロナウイルスの感染拡大により、春学期の遠隔授業が決定しました。先生のご指導の下、遠隔授業の準備が始まったものの、資料作成は予想以上に困難でした。

初回は実習のポイントを動画で撮影、編集をしてマナビーで配信することになりました。しかし、音声が小さかつたり、動画形式の変換や書き出しに時間がかかつたり、思うようにいかない点が多くすぐさま方針が変更になりました。

基础栄養学研究室助手

研究室発足1年目であり、助手の私も初年度で且つコロナ禍の対応を余儀なくされ、先輩から引き継いだ内容では太刀打ちできないことが山ほどあった弋谷です。子、戸棚や取っ手、ありとあらゆる場所を消毒してまわりました。数えきれない対策と新しいルールに戸惑い、駆け抜けた2020年度でした。2021度はその反省と経験を生かした一年にしていきたいと思います。

生活科学部の助手の一年

とかなりましたが、マナビ（本学に新しく導入された学生さんと教員とのインターネットを介した連絡手段で、小テスト、アンケート、レポート、成績などの実施や管理もできるシステムのことです）の使い方を曲りなりともマスターするにはとてもつもない困難を伴うこととなり、多少なりともP.C.の知識があつた妻と二人三脚で、何とか乗り越えることができました。秋の授業からは全面対面

二〇二〇年度人間生活学科実習助手

# 生活科学部の助手の一年

ある疲労の研究を推進し、多くの人々の健康・福祉社会を実現に貢献したいと考えています。同時に、昨年度あまりできなかつた、同志社女子大学に貢献できるよう、大いに励みたいと考えています。

休業の影響で、学生が製作に必要な布や材料を購入しに行けないと  
いう状況でしたが、実習室から材料を送ることで、自宅で作業を進  
められる様にサポートしました。

授業の進行にはマナビーや  
Teamsなどのオンライン授業支援ツ  
ールを活用しました。実習科目  
ではこれらのツールを今まで殆ど  
利用していなかった為、学生も教  
職員もお互い不慣れな状態からの  
スタートでしたが、授業を重ねて

初回は実習のポイントを動画で撮影、編集をしてマナビーで配信することになりました。しかし、音声が小さかつたり、動画形式の変換や書き出しに時間がかかったりと、思うようにいかない点が多くすぐさま方針が変更になりました。それ以降は、画像と文字で実習のポイントをまとめたPDF資料を作成してマナビーで計10クラスに配信。実習室助手のおふたりも一緒に4人で調理、写真撮影、

基礎栄養学研究室助手

二〇一〇年度人間生活学科実習助手

となり、学生さんだけでなく私もやっと学園生活（？）を送れるようになります。このようなさまざまですでの、とてもコロナ禍の一年

人間生活学科の実習助手は、嘱託講師の先生方の授業のサポートの主とし、製図・被服の実習室の

いくうちに様々な機能を使いこなせる様になりました。

秋学期からは、除菌や社会的距離の確保を徹底しながらも対面授業

編集を行なうサイクルが続きました。ようやく緊急事態宣言も解除され、秋学期から再開した対面授業

生らの感染リスクを考慮するとやむを得ない最善策だったと感じています。

基礎栄養学研究室助手

子

なるような授業や実験を実施するために、授業ではZoomを用いてグループワークを行い、そのなかで全体発表してもらったり、実験では実験内容の説明から実際の作業まで、少しでも分かりやすく興味を持つてもらえるように撮影を工夫したりしました。

それでも学生の学習の場が失われてしまつたことに変わりはありません。貴重な学生生活の一部を奪つた感染症ですが、共に歩むべく、新しい教育方法を学ぶ良い機会であったと前向きに捉えていきます。

い、初めての状況でした。精神的にも追い詰められていましたが、教授や友達に支えられ、不安は解消できたよう思います。卒業論文の進捗は、自分のペースで進めることは出来ない状況でしたが、

この時代だから得られたもの

4

たのは、オンライン上で実験実習である。私が在籍する食物科学専攻では、実験科目の数が三年次に最大になり、年間を通して実験実習が行われる。これはコロナ禍になりリモート授業の機会が増加した昨年度でも勿論変わらない。中でも

う前代未聞の経験があり、検索方法の工夫と、いっそスキルを養うことが、去年一年間も悪いのかもしねない。

口才禍といつたから、といった新しくなかつた出来た。新

この趣味新しに学に励み、連絡をい趣味す。仲を共有し、自ら自主

んで来られた  
とつてくれ  
のおかげば  
の良い友達  
したり、Z  
勉強をした

れたのは、二  
た友達と、  
たと思つて  
たとリマイ、  
oom を繋げ  
たりすること

つたため Google Scholar や LIND を活用しながら考察した。

空き時間に友達と勉強をしてお昼ご飯を食べながら日々の

秋学期からは対面授業も始まり、学生同士の学び合いの場を設けることができたのは本校の教職員の皆様のおかげだと感じております。この一年で私は臨機応変に応じて、対応することを学べました。今年度からはゼミも始まるのでより一層精進して参ります。

の支障もなく授業を聞く事が、難しかったよう思います。また、会話を遠隔授業で行ってみると、対面での会話にはない、「間」が出来てしまって、相槌や質問をすることさえも苦労しました。20年は一年を過ぎるのが本当に早くて、大学での学びや友人との

加工学実験は、送られてきた材料を使って自宅で行うことになつた。つまり、学校が閉鎖され機材が全く使えない中で実験を再現しなければならなかつたのである。そこで私はどうすれば数少ない手持ちの調理器具で近い条件が作れるか、今までの知識から考えて実

今できることを全力で!  
食物栄養学科 管理栄養士専攻  
4年  
昨年4月の緊急事態宣言によつて、あたりまえだと思っていた日常がガラッと変わつてしまいまし  
た。一部の実験だけは大学で行う

泣いても笑つても、私の生活はあと1年です。出来なばかりに目を向けて日々を過ごすではなく、健康に活中して取り組むことができています。

# コロナ禍の一年を 乗り越えて

あつという間に過ぎて  
しまった2020年

生活科学研究科  
生活デザイン専攻  
1年

2020年は波乱としか言えな

考えることも楽しくて、わくわく

春学期は図書館が自由に使えなか

かつたと感じています。普段なら

生活科学研究科 生活デザイン専攻  
1年

資料として紙の本を用いることが

必要な知識を身につけることができ

2

私は、一九九四年四月に赴任した当初、一人の教授に惹かれました。彼は、会議で余り発言されることはなかつたのですが、たまに発言されると朴訥ながらもその内容は、理路整然とし、大変説得力のあるものでした。彼の普段の立ち居振る舞いや言動は眞面目そのもので、教授とはかくあるべしと私の目には映つたものでした。その先生こそが、当時調理科学を担当させていた安藤 孝雄先生です。入社後一年ほど経つたとき、何を思われたか印刷室で仕事をする私をたまたま見つけられ、「西

したが、安藤先生に認めていただけのことがあつれしくて、有頂天になつたことを思い出します。遠い存在だった安藤先生が、近づいてくださつた瞬間でもありました。

安藤先生は、一九九六年三月に退職されます。心の支えを失つたようで、大変悲しかつた。先生がおられなくなつた職場で、諸事瑣末な事に煩わされ、鬱々とした毎日を過ごしていた時、一度、安藤先生に相談してみようと、厚かましくも思いの丈を文章にして、先生にお送りしたのでした。返事は、なかなか返つてくることはな

る文章から始まり、私の悩みに寄り添い、ご自身の経験を踏まえながら、先生のお考えをしるされたものでした。選び抜かれた示唆に富む珠玉の言葉が並びます。特に「四十年になつて新しい職場へ来た場合、親しい深い付き合い、人間関係が欲しい 出来なければならない、と思わないことです。そう思うことで小生は気が楽になりました。」と自分の経験を振り返りながら記されたこのくだりは、人間関係のしがらみにとらわれていた私の目を見開かせます。

役立てようと若き頃、志したのでなかつたのか。そのために今自分で自分はなにほどの努力をしているのか？ 四十年の人生で、こびりついた塵芥は、私の目を曇らせ、なまねばならぬことを見誤らせていて、ことに気がされます。それを境に、私は、"群れる"ことから距離をおくこととなります。

そんな若造も、この大学で二十七年の時を刻むことになります。ただきましたが、何かトラブルが生じて、困ったとき、迷つたとき、

安藤先生。先生の実直さに救わ  
れた人間がここにいます。長い  
間、本当にありがとうございました。  
た。これからも、先生からいただ  
きましたご示唆を一つ一つかみし  
めて、人生の final stage を歩んで  
ゆきたいと思います。そして、い  
つの日からもう一度お会いしたと  
き、「あなたを採用して本当に良  
かつた。」と再び言つていただけ  
るようにならうと精進いたします。  
どうか、先生、安らかにお休みく  
ださい。



## 実直のひと

—安藤孝雄先生を偲んで—

◆安藤孝雄先生略歴◆

◆安藤孝雄先生略歴◆	
一九三一年一月一日	出生
一九五六年三月	大阪大学工学部醸酵工学科卒業
一九五六年一月	株式会社北川本家京都市工業試験場醸酵食品研究室勤務
一九六一年五月	兵庫県立姫路工業大学助手のちに講師
一九六八年四月	同志社女子大学嘱託講師
一九七〇年四月	同志社女子大学助教授
一九九六年三月	同志社女子大学教授
一九九六年四月	書館長・大学院家政学研究科長など を歴任
二〇〇二〇年七月三〇日	定年退職
永眠、八十九歳	同志社女子大学名譽教授

【同志社女子大学生活科学】第五十四卷・内容

(二〇二一年発行)

学会では年一回会誌『同志社女子大学生活科学』を発行しています。

二〇二〇年度は第五十四巻を発行しました。卒業生の方で購読ご希望の方は五百円（送料込み）をお振込みの上お申込み下さい。折り返し会誌をお送りします。バックナンバーもございます。また、四十四巻から論文を本学のホームページ上で公開しています。なお、会員の方はどなたでもこの会誌に投稿することができます。投稿規定と原稿の書き方は生活科学会ホームページにてご確認下さい。原稿締切りは毎年十月中旬です。

実直のひと

— 安藤孝雄先生を偲んで —

原著論文

## 女子大学生における居場所感覚の基底にある心理学的機制の探索（VI）

探索 (V)  
諸井 克英・木ノ下晴菜

西村  
公雄

2020 年度生活科学会決算書

(自 2020 年 4 月 1 日~至 2021 年 3 月 31 日)

## □ 経常会計

項目		予算	決算
収入	会費	2,829,000	2,844,000
	寄付	0	0
	利息	600	582
	雑収入	205,000	206,000
	研究会運営費	0	0
	見学会所要費	0	0
	収入 計	3,034,600	3,050,582
	大会運営費	0	0
支出	研究会運営費	0	0
	見学会所要費	0	0
	備品費	0	0
	印刷費	700,000	584,576
	通信費	1,620,000	1,628,319
	交通費	0	0
	文具雑品費	70,000	76,983
	アルバイト費	600,000	532,070
雜費		0	0
奨学金運営費振替		240,000	240,000
支出 計		3,230,000	3,061,948
当年度収支差額		△195,400	△11,366
前年度繰越金		8,186,595	8,186,595
次年度繰越金		7,991,195	8,175,229

□ 総合会計

項目		予算	決算
収入	利息	2,000	1,976
	寄付	0	0
	奨学金運営費	240,000	240,000
収入 計		242,000	241,976
支出	奨学金	880,000	600,000
	支出 計	880,000	600,000
当年度収支差額		△638,000	△358,024
前年度繰越金		22,710,829	22,710,829
次年度繰越金		22,072,829	22,352,805

## 2020 年度事業報告

第54回同志社女子大学生活科学会大会を開催しました（会長：西村公雄先生）。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、総会は書面決議とし、すべての議案が承認されました。講演会は中止としました。

研究会、見学会についてもどちらも中止としました。

## 奨学金のお知らせ

生活科学会では、本学生活科学部に所属する学生・院生に奨学金を支給しています。募集は9月に行います。詳細は同志社女子大学ホームページにてご確認ください。

生活科学会運営委員（2021年度）（敬称略）

教員	小松 龍史（会長） 平光 瞳子（副会長） 神田 知子 小切間 美保 西村 公雄 鈴木 拓史 田中 雅彰 塚田由佳里
卒業生	
院生	
在学生	人間生活 食物科学 管理栄養 4年次 3年次 2年次 1年次
事務局	尼川佐知子

研究室だより

服飾文化（平光）研究室

服飾文化研究室は新たに12名のゼミ生が加わり新年度を迎えました。3回生はファッショニ産業の仕組みや流れを学び、4回生は就職活動と並行して、日々興味をもつたテーマで卒業論文に取り組みます。多忙な日々を過ごしていく中で、皆が健康に、そして充実した一年を過ごせるよう、精一杯サポートし共に学んでいきたいと思います。

（助手）

（ゼミ生一同）

ことは勿論、先生を含め全員で支え合いながら卒業論文を完成させ、一年にしたいです。

**住生活学（奥田）研究室**  
今年度は12名の3回生を迎えて、計22名のゼミ生と共に新学期をスタートしました。4回生は昨年の秋頃から卒業論文のテーマを決め、それぞれの研究に取り組もうとしています。3回生もグループ調査の課題を決定し、調査の準備に取り掛かっています。皆様が充実した時間を過ごせるよう精一杯サポートしていくたいと思います。  
（助手）

本研究室は今年度12名の学部生と1名の大学院生を新たに迎えられ計24名になりました。これからゼミ生の皆様は、塚田先生の温かな指導の下、それぞれの研究課題や就職活動に取り組まれます。皆様が充実した一年を過ごせるようにお手伝いさせていただきます。

（助手

臨床栄養学（小松）研究室  
助手

ち、特に授業中の意見交換の場では私はいつも沢山の刺激を受けな

トしていきたいと思つております。  
（助手）

互いに助け合いながら、卒論を通じて自身の成長に繋げて欲しいと



# 生活科学会第五十五回大会案内

日時 七月一四日(水)午後三時  
場所 楽真館フーニングコモンズ

## 一、総会

会長挨拶

二〇二〇年度事業報告および決算報告

二〇二一年度事業計画案および予算案審議

## 二、講演会 「疲労の科学」

田中 雅彰 (本学生活科学部食物栄養科学科教授)



疲労は労作による作業効率の低下と定義され、生体のホメオスタシスの根幹をなす概念であるとともに、「痛み」、「発熱」と並ぶ三天バイオアラームの一つです。現代人の三割以上が半年以上続く慢性的な疲労を訴え、慢性的な疲労が認められる人々の半数近くが以前に比べ作業能力が低下し十分に働けていないと感じています。一部の人では、休職、退職に追い込まれており、疲労は現代社会において大きな問題となっています。疲労を克服することは我々にとって非常に重要な課題であり、本講演では、最近の研究結果を通して、現代人の疲労について解説します。

### 講師紹介

大阪市立大学医学部医学科卒業。大阪市立大学大学院医学研究科生理系専攻博士課程単位取得後退学。二〇〇三年医学博士取得。数々の医療現場において臨床医として勤務。その後、大阪市立大学大学院医学研究科にて講師を務め、医療法人秀恵会中川クリニック本院副院長を経て、二〇二〇年より同志社女子大学生活科学部教授。

新型コロナウイルスの感染状況によってはオンラインでの開催となる可能性があります。最新の情報は学会ホームページをご確認ください。

## 見学会中止のお知らせ

残念ながら今年度も見学会は中止とさせていただきます。外部の施設において人が集まり体験学習を行うという見学会の性質上、この長引くコロナ禍での開催は今年も難しいと判断いたしました。2年連続の中止となり、楽しみにしていた方には大変申し訳ありませんが、何卒ご了承下さいますようお願い申し上げます。

## 生活科学会ホームページ開設のお知らせ

生活科学会のホームページを開設しました。今後は『生活科学会通信』に加え、ホームページでも生活科学会の最新情報をお届けしますので、どうぞご確認ください。

下記アドレスを直接ご入力いただくか、下のQRコードからでもご覧いただけます。

<http://hlgakkaidwcla.com/>



## 研究会

### 生活にまつわるお金の話

#### 内容

本年度の研究会は、新型コロナウイルスの感染拡大を予防するためにオンライン講演会という形で開催いたします。今回は、「お金」をテーマとしてご講演いただきます。とくに昨今では、キャッシュレス・電子マネーなど聞きなれないお金の使い方が出てきました。「キャッシュレスの仕組み」や「税金・社会保障の仕組みや種類」など生活に身近なお金についての理解を深めるために積極的なご参加をお待ちしております。

日 時 2021年10月6日(水曜日)  
15:00~16:30

講 師 京都府金融広報委員会  
京都府金融広報アドバイザー  
藪内 美樹(やぶうちみき)氏

開催方法 オンライン開催

※なお、オンラインによる開催方法の詳細につきましては、学会ホームページ内の研究会ページ(<https://hlgakkaidwcla.com/研究会/>)に掲載させていただきますのでそちらをご覧ください。

## 問い合わせ先

同志社女子大学生活科学会

〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入

(E-mail) [hlgakkai@dwc.doshisha.ac.jp](mailto:hlgakkai@dwc.doshisha.ac.jp)

(TEL) 075-251-4211